

救急救命学科 カリキュラム

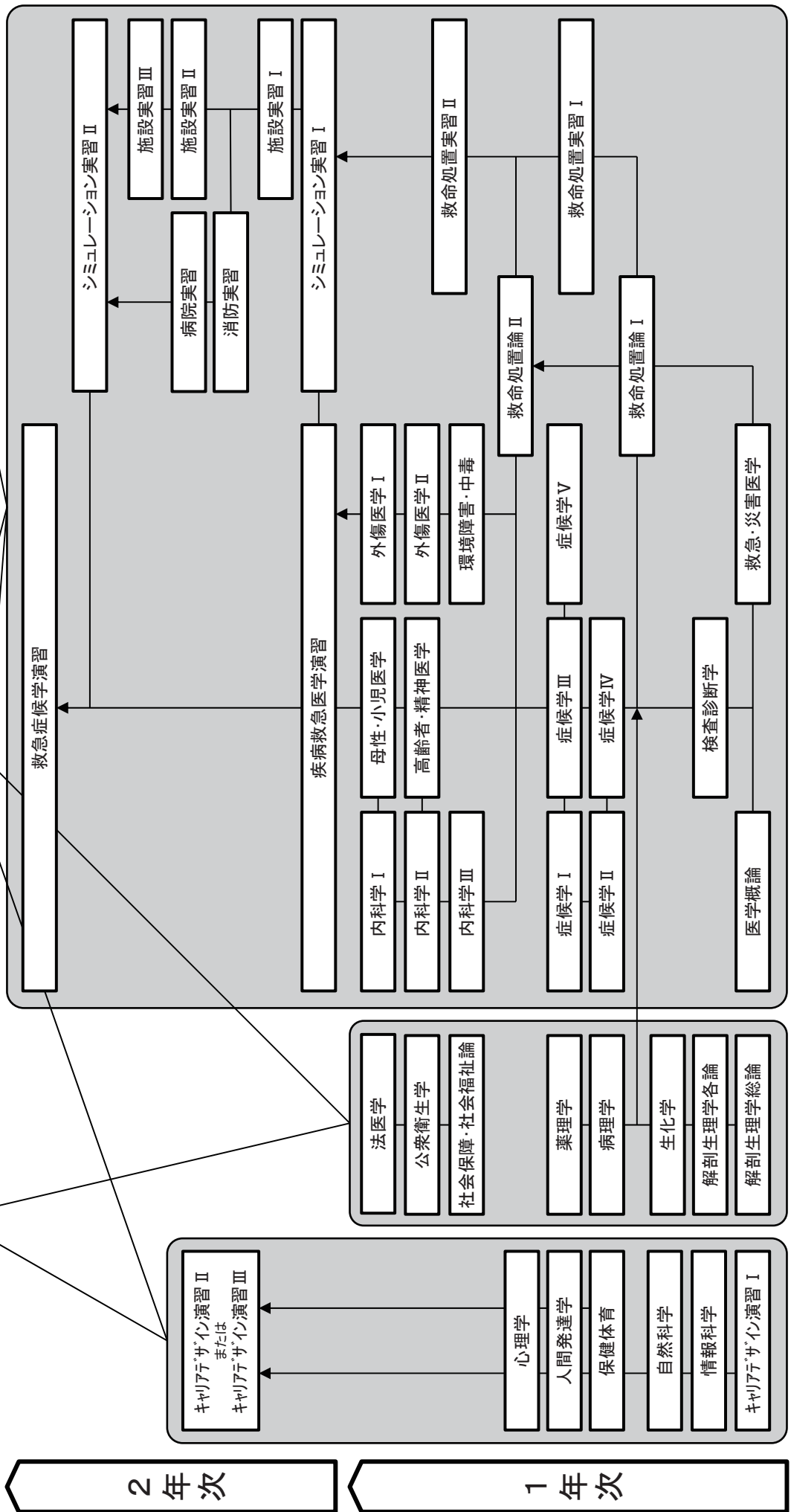
分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と人間生活	自然科学	1	15			1	15		8
		情報科学	1	15			1	15		
		心理学	1	15			1	15		
		人間発達学	1	15			1	15		
		キャリアデザイン演習Ⅰ	3	90			3	90		
		キャリアデザイン演習Ⅱ			3	90	3	90	2科目のうち 1科目選択	
		キャリアデザイン演習Ⅲ								
保健体育	2	60			2	60	実技・講義			
基礎分野	小計	9	210	3	90	12	300		8	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学総論	1	15			1	15		4
		解剖生理学各論	2	30			2	30		
		生化学	1	15			1	15		
	疾患の成り立ちと回復の過程	薬理学	1	15			1	15		4
		病理学	2	30			2	30		
		法医学	1	15			1	15		
	健康と社会保障	公衆衛生学	1	15			1	15		2
社会保障・社会福祉論		1	15			1	15			
専門基礎分野	小計	10	150	0	0	10	150		10	
専門分野	救急医学概論	医学概論	1	15			1	15		6
		救急・災害医学	2	30			2	30		
		検査診断学	1	15			1	15		
		救命処置論Ⅰ	2	30			2	30		
		救命処置論Ⅱ	2	30			2	30		
	救急症候・病態生理学	症候学Ⅰ	2	30			2	30		8
		症候学Ⅱ	2	30			2	30		
		症候学Ⅲ	2	30			2	30		
		症候学Ⅳ	2	30			2	30		
		症候学Ⅴ	2	30			2	30		
		救急症候学演習			2	60	2	60		
	疾病救急医学	内科学Ⅰ	2	30			2	30		8
		内科学Ⅱ	2	30			2	30		
		内科学Ⅲ	2	30			2	30		
		母性・小児医学	2	30			2	30		
		高齢者・精神医学	2	30			2	30		
		疾病救急医学演習			4	120	4	120		
	外傷救急医学	外傷医学Ⅰ	2	30			2	30		4
		外傷医学Ⅱ	2	30			2	30		
	環境障害・急性中毒学	環境障害・急性中毒学	1	15			1	15		1
	臨地実習	救命処置実習Ⅰ	2	90			2	90		25
		救命処置実習Ⅱ	3	135			3	135		
		シミュレーション実習Ⅰ			4	180	4	180		
		シミュレーション実習Ⅱ			6	270	6	270		
		消防実習			3	135	3	135		
病院実習				4	180	4	180			
施設実習Ⅰ				1	45	1	45			
施設実習Ⅱ				1	45	1	45			
施設実習Ⅲ			1	45	1	45				
専門分野	小計	38	720	26	1080	64	1800		52	
	総計	57	1080	29	1170	86	2250		70	

救急救命学科カリキュラムツリー

人間性豊かで、協調性を持ち、何事にも積極的に取り組む、自ら学び続けることができる

修得した専門的知識を総合して症状・徴候を評価し、必要な処置を選択できる

傷病者に必要な救急救命処置を確かつ安全に実施できる



1 年 次

令和5年度 前学期

時間割

救急救命学科 1年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30	キャリアデザイン演習 I 後藤	救命処置実習 I 仮屋	心理学 平島 医学概論 岩永	解剖生理学各論 岩永	検査診断学 原富
2	10:40~ 12:10	病理学 岩永		生化学 金田	自然科学 佐藤	人間発達学 小材
3	13:10~ 14:40	公衆衛生学 北野	救命処置実習 I 仮屋	解剖生理学総論 岩永	キャリアデザイン演習 I 後藤	情報科学 後藤
4	14:50~ 16:20	救命処置論 I 仮屋		社会保障・ 社会福祉論 仮屋葵	救急・災害医学 西岡	保健体育 大潮

令和5年度 後学期

時間割

救急救命学科 1年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30	キャリアデザイン演習 I 後藤	救命処置実習 II 仮屋	症候学 II 佐藤 高齢者・精神医学 岩永	母性・小児医学 川口 内科学 II 赤坂	症候学 III 原富 症候学 II 中山
2	10:40~ 12:10	内科学 I 櫻井, 岡野		外傷医学 I 林田	法医学 米満孝聖 症候学 III 松園	症候学 I 田代 外傷医学 II 後藤
3	13:10~ 14:40	症候学 IV 山家 高齢者・精神医学 岩永	救命処置実習 II 仮屋	内科学 II 原田 内科学 III 加藤	外傷医学 II 上園 症候学 I 前原	保健体育 大潮
4	14:50~ 16:20	症候学 V 岩永	内科学 III 松田 救命処置実習 II 仮屋	環境障害・急性中毒学 川野	薬理学 松坂 症候学 IV 米満弘一郎	救命処置論 II 仮屋

※「時間割」は変更されることがあります。

目次：救急救命学科1年次

自然科学	373
情報科学	373
心理学	374
人間発達学	374
キャリアデザイン演習Ⅰ	375
保健体育	376
解剖生理学総論	377
解剖生理学各論	378
生化学	379
薬理学	379
病理学	380
法医学	381
公衆衛生学	381
社会保障・社会福祉論	382
医学概論	383
救急・災害医学	384
検査診断学	385
救命処置論Ⅰ	386
救命処置論Ⅱ	387
症候学Ⅰ	388
症候学Ⅱ	389
症候学Ⅲ	390
症候学Ⅳ	391
症候学Ⅴ	392
内科学Ⅰ	393
内科学Ⅱ	394
内科学Ⅲ	395
母性・小児医学	396
高齢者・精神医学	397
外傷医学Ⅰ	398
外傷医学Ⅱ	399
環境障害・急性中毒学	400
救命処置実習Ⅰ	401
救命処置実習Ⅱ	402

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	自然科学
代表講師	佐藤 栄 治 (元 熊本大学理学部)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	自然科学の一分野の生物学を通して、基本的な生物学的知識を学ぶとともに論理的思考力(筋道だったものの考え方)とは何かを考えていく。				
到達目標	生命の基本単位としての細胞とは何かを説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (100%)				
テキスト・教材等	『医療・看護系のための生物学』				
回数	授 業 内 容				
第1回	生体構成元素誕生から生命誕生、人類進化はどのようなだったか				
第2回	生物分類学・博物学から分子生物学までの学問領域の進展はどのようなだったか				
第3回	生体構成物質の中で炭水化物・脂質・タンパク質とはなにか				
第4回	生体構成物質の中で核酸とDNAとはなにか				
第5回	細胞構造(細胞膜と細胞小器官の働き)はどうなっているか				
第6回	神経細胞の構造と機能、特に細胞が持つ静止膜電位とはなにか				
第7回	神経細胞の構造と機能、特に神経細胞が生じる活動電位とはなにか				
第8回	神経と筋肉、特に筋肉はどのようにして収縮するのか				
第9回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	情報科学
代表講師	後藤 正 和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	演 習	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な情報活用能力としてインターネットの検索やメールの利用方法などを学ぶ。 医療における統計学の必要性を理解すると共に表計算ソフトを用いて算出し、算出したデータ等を資料にまとめ発表する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> インターネットを利用して必要な情報を検索できる。 表計算ソフトの基本的な操作ができる。 ワードプロセッサソフトの基本的な操作ができる。 プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。 プレゼンテーションソフトを用いて効果的なプレゼンテーションができる。 				
成績評価の方法と基準	課題①～③の評価の合計 (60%) ルーブリックを用いたプレゼンテーション評価 (40%)				
テキスト・教材等	(なし)				
回数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) インターネットを用いた情報の検索、著作権、メールの利用方法について学ぶ				
第2回	表計算ソフト (Microsoft Excel) の基本操作を学ぶ①				
第3回	表計算ソフト (Microsoft Excel) の基本操作を学ぶ② 課題①				
第4回	ワードプロセッサソフト (Microsoft Word) の基本操作を学ぶ①				
第5回	ワードプロセッサソフト (Microsoft Word) の基本操作を学ぶ② 課題②				
第6回	プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) の基本操作を学ぶ①				
第7回	プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) の基本操作を学ぶ② 課題③				
第8回	与えられた課題についてプレゼンテーションする (前半)				
第9回	与えられた課題についてプレゼンテーションする (後半)				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	心理学
代表講師	平 島 あ や (臨床心理士・公認心理士)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	様々な心理学的視点を通して、自己理解を得る。自分の生活に学んだことを活かし、取り入れる知識を得る。				
到達目標	自己理解を深め、自分に必要なストレスケアや心理社会的スキルを獲得する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (50%)、ワークシート・レポート (50%)				
テキスト・教材等	『生き方支援の心理学』				
回数	授 業 内 容				
第1回	心理学オリエンテーション。心理学を学ぶ意義を理解する。				
第2回	ストレスの仕組みを知り、ストレスケアのワークを実践する。				
第3回	脳、感情、身体の関係について理解する。				
第4回	自律神経の状態を理解し、生活に与える影響を理解する。ケアの視点を得る。				
第5回	自己の性格傾向を理解する。必要な対処を検討する。				
第6回	心の危機状態のサインを知り、適切な対処法を検討する。				
第7回	専門職 (救急救命士) へのインタビューを通して、就労時の心理学スキル活用のイメージをつかむ。				
第8回	自他を尊重したコミュニケーションについて考える。				
第9回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	人間発達学
代表講師	小 材 美沙紀 (臨床心理士)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	誕生から死まで人間がどのような発達過程をたどるのかを学習する。 生物心理社会的視点から人間の発達過程をながめ、それぞれの発達段階で生じやすい課題と支援について考える。				
到達目標	発達の知識を臨床や支援の場で活用することを念頭に、「正常な」発達とは何か、そこからの逸脱によって生じる課題、発達上の課題への支援について理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (50%)、レポート (25%)、授業参加態度 (25%) から総合的に評価する。				
テキスト・教材等	『リハビリテーションのための人間発達学』				
回数	授 業 内 容				
第1回	イントロダクション 人間発達学がどのような学問か理解する。 胎児期の身体発達と感覚器官の働きを知る。正常な発達を阻害する要因について学ぶ。				
第2回	新生児期の身体発達を学ぶ。 養育者に生じる生活上の変化と、それへの適応の重要性を理解する。				
第3回	乳児期の身体発達、運動の発達について学ぶ。 発達を支える遊びの特徴や、養育者の関わりについて理解する。				
第4回	幼児期の身体発達、運動発達、社会性の発達を学ぶ。 幼児期の遊びの特徴と発達の意義、養育者からのしつけの発達への影響を理解する。				
第5回	児童期の身体発達、運動発達、社会性の発達について学習する。 神経発達障害の概要を学び、それによる生活上の困り感について考える。				
第6回	青年期の身体発達、社会性の発達、情緒の変化について学習する。 発達の变化をふまえた、支援のあり方について考える。				
第7回	成人期の家庭生活、職業生活の形成と変化、適応について学ぶ。 成人期の課題と望ましい支援を考える。				
第8回	老年期の身体発達、感覚器官、運動機能、認知機能の変化を学習する。 老年期の特徴をふまえた関わり方について考える。				
第9回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	キャリアデザイン演習 I
代表講師	後藤 正和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 藤岡 晴美				
授業方法	演習	単位数	3	学期・回数	前・後期：45回 (90時間)
授業概要	これまでとは違った「主体的な学び方」を理解し、職業人に必要な多様なコミュニケーション能力やキャリアプランニング能力等の基礎的・汎用的能力を総合的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでとは違った主体的な学び方が実践できる。 2. 自身の「活動」「実績」「関心事」などをファイルすることで個性を発見し、進路設計 / 選択に活用することができる。 3. 日常の中で起こる様々な変化への対処法を身に付けることができる。 4. 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを伝えることができる。 5. 自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働し自発的に行動することができる。 6. 自分の将来を展望することで自らに必要な知識・技能を確認し向上心を持って活動できる。 				
成績評価の方法と基準	ルーブリックを用いたパーソナルポートフォリオの評価 (50%) ルーブリックを用いた態度評価 (50%)				
テキスト・教材等	『学習設計マニュアル』				
回数	授 業 内 容				担当講師
(全16回)	これまでとは違った「主体的な学び方」を学ぶ ・ガイダンス (授業の進め方と評価方法)：前期 1回 ・学習設計「学び方を見直す」：前期 15回				後藤 正和
(全4回)	自身の「活動」「実績」「関心事」などをファイルし個性を発見する ・パーソナルポートフォリオの作り方：前期 2回、後期 2回				岩永ひとみ
(全6回)	日常の中で起こる様々な変化への対処法を学ぶ ・ストレスマネジメント：前期 1回、後期 1回 ・モチベーションマネジメント：前期 4回				岩永ひとみ 後藤 正和
(全5回)	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを伝える方法を学ぶ ・非言語コミュニケーションスキル (手話)：前期 5回				藤岡 晴美
(全8回)	自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働し自発的に行動する ・規律訓練：前期 4回、後期 4回				後藤 正和
(全6回)	自分の将来を展望することで自らに必要な知識・技能を確認する ・消防学校初任科見学：前期 2回 ・職業講話 (自衛隊、海上保安庁、JEMS、病院)：前期 4回				仮屋 俊作 後藤 正和

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	保健体育
代 表 講 師	大 潮 八 郎				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回（60時間）
授 業 概 要	運動が生理機能に及ぼす影響を医科学的に学習する。				
到 達 目 標	生涯スポーツを意識し、自己体力の保持増進ができる運動処方作成ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	試験（70％） 平常点：目標の達成度（20％） 参加意欲（10％）				
テキスト・教材等	必要に応じて資料配布				
回 数	授 業 内 容				
第1回	健康と体力：WHOの定義 健康阻害因子 行動体力 防衛体力 精神力				
第2回	運動の表現機能：運動器				
第3回	運動の調整機能：神経系				
第4回	トレーニング：原理原則				
第5回	実技：バドミントン 基礎技術練習 ストローク				
第6回	〃 〃				
第7回	〃 基礎技術練習 ルール解説				
第8回	〃 ダブルスゲーム ルール確認				
第9回	〃 〃				
第10回	〃 ダブルスゲームとフォーメーション				
第11回	〃 〃				
第12回	〃 ダブルスゲーム リーグ戦				
第13回	〃 〃				
第14回	〃 〃				
第15回	試 験				
第16回	実技：バドミントン ダブルスゲーム リーグ戦				
第17回	〃 〃				
第18回	〃 〃				
第19回	〃 チーム（団体）リーグ戦				
第20回	〃 〃				
第21回	〃 〃				
第22回	〃 〃 バドミントン技術の自己評価				
第23回	実技：ミニソフトバレーボール ルール解説 チーム（団体）リーグ戦				
第24回	〃 リーグ戦				
第25回	〃 リーグ戦				
第26回	〃 リーグ戦				
第27回	運動の持続機能：心肺機能				
第28回	エネルギー供給過程：エネルギー源				
第29回	トレーニングの効果：レジスタンス エンデュランス				
第30回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能	科目名	解剖生理学総論
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授 業 概 要 小 テ ス ト	人体を構成する各器官の基本的構造と機能及び相互関係を学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到 達 目 標	1. 人体の構造、構成、生命維持に関わる基礎知識について、系統別に概要を説明できる。 2. 人体解剖図を系統別に描写できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テスト (70%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、Moodle に挙げる授業ごとの資料 講義資料 (ワークブック)、人体模型 (骨格、人体、脳、心臓)				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法) 予習確認テスト (事前配布資料) と解説 解剖学と生理学から考える生きている仕組み：総論				
第2回	酸素を取り込む仕組み：呼吸器生理学の概要、小テスト				
第3回	血液を廻らせる仕組み：循環器系生理学の概要、小テスト				
第4回	栄養を取り込む仕組み：消化器系生理学の概要、小テスト				
第5回	生き貫くために動く・考える・記憶する：神経系生理学の概要、小テスト				
第6回	循環を維持する仕組みと毒素排泄の仕組み：腎泌尿器系生理学の概要、小テスト				
第7回	自らを守る仕組みと臓器のネットワーク：血液免疫・内分泌系生理学の概要、小テスト				
第8回	世代をつなぐ：生殖器系生理学の概要、小テスト				
第9回	総括テスト：人体図を系統ごとに描く				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能	科目名	解剖生理学各論
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授 業 概 要	人体を構成する各器官の構造と機能に関する各論を系統的・総合的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到 達 目 標	人体の構造、構成、働きについて、呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系、感覚器系、腎泌尿器系、血液免疫系、内分泌系、生殖器系別に説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テスト (70%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、Moodle に挙げる授業ごとの資料 講義資料 (ワークブック)、人体模型 (骨格、人体、脳、心臓)				
回 数	授 業 内 容				
第1回	呼吸器系の解剖と働き、小テスト				
第2回	呼吸器系の解剖と働き、小テスト				
第3回	循環器系の解剖と働き、小テスト				
第4回	循環器系の解剖と働き、小テスト				
第5回	消化器系の解剖と働き、小テスト				
第6回	消化器系の解剖と働き、小テスト				
第7回	神経系・感覚器系の解剖と働き、小テスト				
第8回	神経系・感覚器系の解剖と働き、小テスト				
第9回	神経系・感覚器系の解剖と働き、小テスト				
第10回	腎泌尿器系の解剖と働き、小テスト				
第11回	腎泌尿器系の解剖と働き、小テスト				
第12回	血液免疫系の解剖と働き、小テスト				
第13回	内分泌系の解剖と働き、小テスト				
第14回	生殖器系の解剖と働き、小テスト				
第15回	総括テストと解説				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能	科目名	生 化 学
代表講師	金 田 照 夫 (熊本高等専門学校名誉教授)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授業概要	人体を構成する要素としての「細胞」を中心にして、「細胞の構造」や「細胞を構成する物質」の構造と役割を説明し、細胞内の化学反応 (代謝) の内容を概説する。				
到達目標	人体を構成する「細胞」の構造を理解し、説明できる。 「細胞を構成する物質」の構造と役割を説明できる。 細胞内のエネルギー代謝の仕組みを理解し、代謝の種類と役割を説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験の成績で評価する (100%)。60 点以上で合格とする。				
テキスト・教材等	『改訂第 10 版 救急救命士標準テキスト』。毎回の授業でスライド資料を配付する。				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	人体を構成する要素 1 シラバスの説明と成績評価の説明。人体を構成する要素としての細胞、組織、器官				
第 2 回	人体を構成する要素 2 細胞の種類、細胞の内部構造、細胞小器官と働き				
第 3 回	体を構成する物質 1 細胞膜の組成と構造、働き。体液の種類と組成。体液と浸透圧				
第 4 回	体を構成する物質 2 細胞内液と細胞外液、イオン、電解質、酸塩基平衡。				
第 5 回	体を構成する物質 3 DNA と RNA、遺伝暗号。アミノ酸とタンパク質、脂質、糖質。				
第 6 回	生体維持機構 代謝。同化と異化。ATP の化学構造。ATP と生体エネルギー				
第 7 回	代謝と代謝障害 ATP の生産。栄養と栄養障害。代謝障害。				
第 8 回	電解質 溶質と溶媒。電解質と電解質異常。授業の総まとめ。				
第 9 回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾患の成り立ちと回復の過程	科目名	薬 理 学
代表講師	松 坂 大 輔 (所属：有限会社 呉服薬局)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：9回 (18時間)
授業概要	基本的な薬の種類、その効果・作用・副作用などを学ぶ。				
到達目標	薬の一般的な知識を理解する。薬と疾患を関連づけて理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験の成績で評価する (100%)				
テキスト・教材等	講義毎に資料を配布する。				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	概論、医薬品の基礎				
第 2 回	神経系の疾患と治療				
第 3 回	循環器系の疾患と治療①				
第 4 回	" ②				
第 5 回	内分泌系の疾患と治療				
第 6 回	消化器系の疾患と治療				
第 7 回	呼吸器系の疾患と治療				
第 8 回	救急救命士の取り扱う薬剤・総まとめ				
第 9 回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾患の成り立ちと 回復の過程	科目名	病 理 学
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授 業 概 要	<p>・ 疾病の原因、身体に生じる変化や推移などを総合的に学習する。</p> <p>・ 感染の原因となる微生物の特徴、感染経路及び救急現場で問題となる感染症について理解すると共に、感染予防策と感染事故への対応について学習する。</p> <p>※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。</p>				
到 達 目 標	<p>感染</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の原因となる微生物を列挙し、特徴について説明できる。 2. 感染症の発症について、感染源、感染経路、宿主との関係から説明できる。 <p>感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新興感染症、再興感染症、輸入感染症、耐性菌について説明できる。 2. 感染症法による主な感染症の症候について説明できる。 3. 食中毒の起病病原体で頻度の高いものを列挙できる。 4. 皮膚・軟部組織の代表的な感染症について説明できる。 5. 破傷風、ガス壊疽、疥癬について簡単に説明できる。 <p>感染症対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準予防策の意義と内容について説明できる。 2. 清潔と不潔の概念について説明できる。 3. 洗浄・消毒・滅菌の定義と対象資器材について説明できる。 4. 代表的な消毒薬の特徴と注意点について説明できる。 5. 救急救命士が遭遇し得る感染事故を列挙し、事故後の対応について説明できる。 <p>疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の原因について主因・誘因、内因・外因、遺伝要因・環境要因に分けて説明できる。 2. 予防医学について一次予防、二次予防、三次予防に分けて説明できる。 <p>細胞傷害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞傷害とその要因について説明できる。 <p>炎症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 炎症とは何か説明できる。 2. 炎症が全身に及ぼす影響について説明できる。 <p>循環障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 虚血、梗塞、うっ血、浮腫、出血、血栓、塞栓の原因、病態について説明できる。 <p>腫瘍</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍とは何かを増殖制御と関連させながら説明できる。 <p>損傷と治癒</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 創傷の一次治癒と二次治癒について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テストの合計 (70%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、医療従事者としての感染症対策と心得について学ぶ				
第2回	感染について学ぶ、小テスト				
第3回	感染症について学ぶ①、小テスト				
第4回	感染症について学ぶ②、小テスト				
第5回	感染症について学ぶ③、小テスト				
第6回	感染症について学ぶ④、小テスト				
第7回	総括テスト①・振り返り				
第8回	感染対策について学ぶ①、小テスト				
第9回	感染対策について学ぶ②、小テスト				
第10回	総括テスト②・振り返り				
第11回	疾患の成り立ちと回復過程について学ぶ①、小テスト				
第12回	疾患の成り立ちと回復過程について学ぶ②、小テスト				
第13回	疾患の成り立ちと回復過程について学ぶ③、小テスト				
第14回	疾患の成り立ちと回復過程について学ぶ④、小テスト				
第15回	総括テスト③・振り返り				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾患の成り立ちと回復の過程	科目名	法 医 学
代表講師	米 満 孝 聖 (元 熊本大学大学院生命科学研究部)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：9回(18時間)
授業概要	救急救命士に必要な法医学的知識を習得して、救急医療におけるその重要性を理解できる。				
到達目標	特に、異状死の死因究明制度と救急医療との関わりについて理解できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(90%)、出席点(10%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	法医学の目的と意義：医学の中における法医学の位置づけ、法医学の歴史、関連領域				
第2回	死と死の判定：生から死への過程、三徴候説、脳死、死の確徴と不確徴				
第3回	死体現象：早期死体現象、晩期死体現象、死後経過時間				
第4回	人の死と死後の手続き：死亡診断書と死体検案書、検視と検案、法医解剖、異状死				
第5回	死因各論(1)：内因死と外因死、内因性急死、損傷死				
第6回	死因各論(2)：窒息死、溺死、異常環境死、中毒死				
第7回	大災害と法医学：救急医療と法医学、大量災害死、法歯学				
第8回	医事法制：医療と法律、医療従事者と患者の関係、患者の権利				
第9回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	健康と社会保障	科目名	公衆衛生学
代表講師	北 野 隆 雄 (元 熊本大学大学院生命科学研究部)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回(18時間)
授業概要	公衆衛生学の講義を通じて予防医学の概念を理解し、その実践方法の基本的な考え方を理解する。併せてわが国の公衆衛生行政のあり方についても理解を深める。				
到達目標	健康の概念について理解し説明できる。 予防医学の考え方を理解し説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(100%)				
テキスト・教材等	『シンプル衛生 公衆衛生学 2023』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	公衆衛生学概論：公衆衛生学とは				
第2回	保健統計：健康指標と人口統計				
第3回	疫学：疫学総論				
第4回	主な疾病と予防：疾病予防と健康管理				
第5回	環境保健：環境因子と疾病				
第6回	健康生活の実践(Ⅰ)：日常生活と健康				
第7回	健康生活の実践(Ⅱ)：社会生活と健康				
第8回	国際保健：国際保健の課題と目標				
第9回	試 験				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	健康と社会保障	科目名	社会保障・社会福祉論
代 表 講 師	仮 屋 葵 (社会福祉士)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	救急救命士の資格も有する現役社会福祉士が、福祉現場での経験を活かし、社会保障と社会福祉制度について講義する。				
授 業 概 要	社会保障と社会福祉の制度についてわが国の現状を学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到 達 目 標	救急救命士に必要な社会福祉と医療、社会保障について説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (100%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、別途配布する資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス 社会保障について学ぶ① 小テスト				
第2回	社会保障について学ぶ② 小テスト				
第3回	医療保険制度について学ぶ 小テスト				
第4回	介護保険制度について学ぶ 小テスト				
第5回	年金保険制度について学ぶ 小テスト				
第6回	児童福祉について学ぶ 小テスト				
第7回	障がい者福祉について学ぶ 小テスト				
第8回	高齢者福祉について学ぶ 小テスト				
第9回	生活保護制度について学ぶ 小テスト				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急医学概論	科目名	医学概論
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	演習・講義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授 業 概 要	生命倫理と医療倫理の基本的な考え方を学習し、地域における救急救命士の役割を考える。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理の4つの原則を列挙し説明できる。 2. 生命倫理の4つの原則について例示できる。 3. 医療における倫理観の偏移について説明できる。 4. 救急医療におけるインフォームドコンセントの特徴について説明できる。 5. QOL、リビングウィルについて説明できる。 6. 死生観と救急救命士として働く職業観を表現できる。 				
成績評価の方法と基準	グループワーク記録票による評価 (20%)、ルーブリックを用いた感想文評価 (20%)、総括テスト (60%)				
テキスト・教材等	Moodle 上の資料、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、配布資料、DVD				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法) 医療における倫理観の偏移について				
第2回	グループワーク：信用と責任について ANA 職員の教育から考える「信用できる人はどんなひと？」「仁義礼智信」の解説 グループワーク記録票提出				
第3回	地域ケアシステムとアドバンスケアプランニングについて① DNARとリビングウィル、尊厳死・安楽死の違いを知る 個人ワーク「90歳の私の死」				
第4回	DVD視聴を通して死生観について考える グループワーク：登場人物の「死を受け入れること」について考える グループワーク記録票提出				
第5回					
第6回					
第7回	DVDを視聴し、自身の死生観を育む 感想文提出				
第8回	地域ケアシステムとアドバンスケアプランニングについて② DNARとリビングウィルを医療倫理の四原則から考える				
第9回	総括テスト グループワーク：採用側の立場で考える「欲しい人材像」 到達目標3について意見交換とグループワーク記録票提出				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急医学概論	科目名	救急・災害医学
代 表 講 師	仮 屋 俊 作 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 西 岡 和 男 (所属：熊本市民病院総務企画課企画班・救急科主任主事)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	元消防官の救急救命士が、救急現場での経験を活かし、救急医療体制と救急救命士のあり方について講義する。				
授 業 概 要	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命士誕生から今日までを振り返りながら、救急救命士にはどのような知識・技術・技能が求められているかを学習すると共に今後どのようなことが求められるかを考察する。 災害現場での実動経験者からの講話をとおして災害医療体制について学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	救急医療体制 <ol style="list-style-type: none"> わが国の救急医療体制について簡単に説明できる。 救急搬送体制について説明できる。 救急搬送について説明できる。 医療機関の役割と要件について説明できる。 救急医療体制について簡単に説明できる。 メディカルコントロールについて説明できる。 消防機関における救急活動の流れについて説明できる。 救急活動時のコミュニケーションについて説明できる。 救急救命士に関連する法令について説明できる。 救急救命士の生涯教育について説明できる。 安全管理と事故対応について説明できる。 ストレスに対するマネジメントについて説明できる。 災害医療体制 <ol style="list-style-type: none"> 災害の定義について説明できる。 多数傷病者発生時の最先着隊の活動について説明できる。 トリアージの概念と目的について説明できる。 災害対応における他機関との連携について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(60%)、ルーブリックを用いたレポート評価(40%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂2版補訂版 JPTEC ガイドブック』 『標準 多数傷病者対応 MCLS テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) 救急医療体制について学ぶ①、小テスト				仮屋 俊作 西岡 和男
第2回	救急医療体制について学ぶ②、小テスト				西岡 和男
第3回	救急医療体制について学ぶ③、小テスト				〃
第4回	消防機関における救急活動の流れについて学ぶ、小テスト				〃
第5回	救急活動時のコミュニケーションについて学ぶ、小テスト				〃
第6回	救急救命士に関連する法令について学ぶ①、小テスト				〃
第7回	救急救命士に関連する法令について学ぶ②、小テスト				〃
第8回	救急救命士の生涯教育について学ぶ、小テスト				〃
第9回	安全管理と事故対策について学ぶ、小テスト				〃
第10回	ストレスに対するマネジメントについて学ぶ、小テスト				〃
第11回	災害医療体制について学ぶ①、レポート				仮屋 俊作
第12回	災害医療体制について学ぶ②、レポート				〃
第13回	災害医療体制について学ぶ③、レポート				〃
第14回	フィールドワーク①、レポート				〃
第15回	フィールドワーク②、レポート				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急医学概論	科目名	検査診断学
代 表 講 師	後 藤 正 和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 原 富 由 香 (所属：熊本赤十字病院第三救急科部長)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、各種検査の内容と目的および検査結果を読みとる方法について講義する。				
授 業 概 要	救急医療の場で行われる各種検査の内容と目的および検査結果を読みとる方法を学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	1. 検体検査、生理学的検査、画像検査について主な検査を列挙できる。 2. 主な緊急検査を列挙し、説明できる。 3. 血液検査・画像検査の結果を読み取ることができる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テスト (70%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法) 解剖生理学総論確認テスト				後藤 正和
第2回	検査の種類について学ぶ 緊急検査について学ぶ① 小テスト				原富 由香
第3回	緊急検査について学ぶ② 小テスト				〃
第4回	緊急検査について学ぶ③ 小テスト				〃
第5回	緊急検査について学ぶ④ 小テスト				〃
第6回	緊急検査について学ぶ⑤ 小テスト				〃
第7回	演習①				後藤 正和
第8回	演習②				〃
第9回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急医学概論	科目名	救命処置論 I
代 表 講 師	仮 屋 俊 作 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授 業 概 要	救命処置実習と関連し、救急救命士が行う処置の目的、適応、手順、注意点についてそれぞれ学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	救急救命士が行う処置 1. 各救急救命処置の適応、禁忌、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 傷病者搬送 1. 傷病者搬送の原則と注意点について説明できる。 2. 傷病者搬送におけるボディメカニクスについて説明できる。 3. 体位変換の方法について説明できる。 4. 徒手搬送の種類を列挙し、適応と方法について説明できる。 資機材による観察 1. 各資機材の適応、構造・原理、方法、評価、注意点について説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テスト (70%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020 (市民用・解説編)』 『改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック』、『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、救急蘇生法について学ぶ、小テスト				
第2回	市民による心肺蘇生、AEDについて学ぶ、小テスト				
第3回	気道異物除去について学ぶ、小テスト				
第4回	体位管理、体温管理について学ぶ、小テスト				
第5回	傷病者搬送について学ぶ①、小テスト				
第6回	傷病者搬送について学ぶ②、小テスト				
第7回	止血、創傷処置、固定について学ぶ①、小テスト				
第8回	止血、創傷処置、固定について学ぶ②、小テスト				
第9回	全身固定について学ぶ①、小テスト				
第10回	全身固定について学ぶ②、小テスト				
第11回	バイタルサイン測定について学ぶ①、小テスト				
第12回	バイタルサイン測定について学ぶ②、小テスト				
第13回	気道確保、人工呼吸について学ぶ、小テスト				
第14回	心電図、除細動について学ぶ、小テスト				
第15回	総括テストと解説				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急医学概論	科目名	救命処置論Ⅱ
代 表 講 師	仮 屋 俊 作 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回(30時間)
授 業 概 要	救命処置実習と関連し、各救急救命処置の目的、適応、手順、注意点についてそれぞれ学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	救急救命士が行う処置 1. 各救急救命処置の適応、禁忌、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 資機材による観察 1. 各資機材の適応、構造・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 緊急度・重症度判断 1. 緊急度と重症度の概念、判断、目的について説明できる。 観察総論 1. バイタルサインの概念を説明し、具体的な項目を列挙できる。 2. 問診の意義、方法、聴取すべき事項について説明できる。 3. 問診以外の基本的観察方法を列挙し、説明できる。 局所の観察 1. 局所に関する観察項目を列挙し、主な所見とそれから判断される病態・疾患を説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(30%)、中間テスト(30%)、総括テスト(40%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020(医療従事者用)』、『救急活動シミュレーション学習』、『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法)、小テストと解説				
第2回	特定行為について学ぶ①、小テスト				
第3回	特定行為について学ぶ②、小テスト				
第4回	特定行為について学ぶ③、小テスト				
第5回	特定行為について学ぶ④、小テスト				
第6回	特定行為について学ぶ⑤、小テスト				
第7回	自己注射アドレナリン投与について学ぶ、小テスト				
第8回	中間テストと解説				
第9回	観察要領について学ぶ①				
第10回	観察要領について学ぶ②				
第11回	観察要領について学ぶ③				
第12回	観察要領について学ぶ④				
第13回	観察要領について学ぶ⑤				
第14回	観察要領について学ぶ⑥				
第15回	総括テストと解説				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	症候学 I
代表講師	後藤 正和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 前原 潤一 (所属：済生会熊本病院救急科部長) 田代 尊久 (所属：悠愛病院院長)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急医療に関連の深い症状や徴候から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授業概要	心肺停止、心不全、ショックを呈する疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到達目標	<p>心肺停止</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心肺停止の概念について説明できる。 2. 心肺停止に至る病態を3つに分類し、組織酸素化の状態を説明できる。 3. 心肺停止の主な原因疾患を列挙できる。 <p>救急蘇生法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急蘇生法の概念について説明できる。 2. 成人・小児に対する一次救命処置、二次救命処置と心停止アルゴリズムについて説明できる。 3. 胸骨圧迫中の全身の循環、冠循環、脳循環について説明できる。 <p>心不全</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心不全の定義を説明できる。 2. 心不全における心機能、神経系と内分泌の反応について説明できる。 3. 心不全症候を心拍出量減少、肺うっ血に、体循環系のうっ血によるものに分類できる。 <p>ショック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ショックの定義を説明できる。 2. ショックを、発症機序により4つに分類できる。 3. 各種ショックについて共通する病態、特徴について説明できる。 4. 救急救命士がショックに行う輸液の目的と適応、その結果について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テストの合計 (70%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020 (医療従事者用)』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				後藤 正和
第2回	心肺停止について学ぶ、小テスト				田代 尊久
第3回	救急蘇生法について学ぶ①、小テスト				〃
第4回	救急蘇生法について学ぶ②、小テスト				〃
第5回	救急蘇生法について学ぶ③、小テスト				〃
第6回	救急蘇生法について学ぶ④、小テスト				〃
第7回	演習①				後藤 正和
第8回	総括テスト①・振り返り				〃
第9回	心不全について学ぶ①、小テスト				前原 潤一
第10回	心不全について学ぶ②、小テスト				〃
第11回	ショックについて学ぶ①、小テスト				〃
第12回	ショックについて学ぶ②、小テスト				〃
第13回	ショックについて学ぶ③、小テスト				〃
第14回	演習②				後藤 正和
第15回	総括テスト②・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	症候学Ⅱ
代表講師	後藤正和(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院) 佐藤友子(所属:済生会熊本病院救急科副部長) 中山雄二郎(所属:済生会熊本病院救急科副部長)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期:15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急医療に関連の深い症状や徴候から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授業概要	意識障害、頭痛、めまい、痙攣、運動麻痺、一過性意識消失と失神を呈する疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<p>意識障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一次性脳病変と二次性脳病変による意識障害の特徴について説明できる。 2. 意識障害の代表的な原因疾患を列挙し、判断の手がかりについて説明できる。 3. 意識障害で観察される特徴的な随伴症候を説明し、代表的疾患・病態を列挙できる。 4. 緊急度・重症度の高い意識障害について説明できる。 5. 意識障害の傷病者に共通する基本的な観察、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>頭痛</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一次性頭痛と二次性頭痛の概念、相対的頻度について説明できる。 2. 頭痛の性状と随伴症候からみて緊急度・重症度の高い頭痛について説明できる。 3. 頭痛の傷病者に共通する基本的な観察事項、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>痙攣</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 痙攣の原因となる主な脳疾患と全身的病態を列挙し、判断の手がかりを説明できる。 2. 痙攣をきたす疾患で緊急度・重症度の高いものを列挙できる。 3. 痙攣中の傷病者に対する基本的処置、医療機関選定について説明できる。 <p>運動麻痺</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動麻痺の発症機序について説明できる。 2. 運動麻痺を分布によって分類し、代表的な障害部位を説明できる。 3. 運動麻痺の傷病者に共通する基本的な観察、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>めまい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. めまいを性状や病変の部位により分類し、説明できる。 2. 発症様式と随伴症候からみて緊急度・重症度の高いめまいについて説明できる。 3. めまいを訴える傷病者に対する観察の要点、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>一過性意識消失と失神</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 失神の定義を説明できる。 2. 緊急度・重症度の高い失神をきたす原因疾患を列挙できる。 3. 失神の傷病者に対する基本的な処置、医療機関選定について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(30%)、中間テストの合計(30%)、総括テスト(40%) ※注意事項:小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				後藤 正和
第2回	意識障害について学ぶ、小テスト				佐藤 友子
第3回	頭痛について学ぶ①、小テスト				〃
第4回	頭痛について学ぶ②、小テスト				〃
第5回	めまいについて学ぶ①、小テスト				〃
第6回	めまいについて学ぶ②、小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				後藤 正和
第8回	痙攣について学ぶ①、小テスト				中山雄二郎
第9回	痙攣について学ぶ②、小テスト				〃
第10回	運動麻痺について学ぶ①、小テスト				〃
第11回	運動麻痺について学ぶ②、小テスト				〃
第12回	一過性意識消失と失神、小テスト				〃
第13回	中間テスト②・解説				後藤 正和
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	症候学Ⅲ
代表講師	後藤 正和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 松園 幸雅 (所属：荒尾市民病院統括診療部長 兼 救急科部長 兼 HCU 部長) 原 富由香 (所属：熊本赤十字病院第三救急科部長)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急医療に関連の深い症状や徴候から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授業概要	胸痛、動悸、腰痛・背部痛を呈する疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<p>胸痛</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胸痛の発生機序を3つに分類し、代表的疾患を列挙できる。 2. 性状と随伴症候からみて緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。 3. 胸痛の主な原因疾患を、列挙でき、緊急度・重症度の高いものの根拠を説明できる。 4. 胸痛を訴える傷病者に対する観察事項、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>動悸</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動悸の原因となる心疾患と心疾患以外のものを列挙できる。 2. 緊急度・重症度の高い動悸について説明できる。 3. 動悸を訴える傷病者に対する観察事項、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>腰痛・背部痛</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腰痛・背部痛の原因となる内臓疾患を列挙できる。 2. 性状と随伴症候から緊急度・重症度の高い腰痛・背部痛について説明できる。 3. 腰痛・背部痛を訴える傷病者の観察、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>循環器系疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系疾患の病因、病態、症候、合併症、現場活動について説明できる。 2. 心筋症・心筋炎について、虚血性心疾患との鑑別を含め、説明できる。 3. 主な不整脈の典型的な心電図と死金梗塞の典型的な心電図を判読できる。 4. 心電図異常を示す循環器系疾患の心電図を判読できる。 5. 主な末梢血管疾患を列挙し、説明できる。 6. 高血圧緊急症について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テストの合計 (70%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				後藤 正和
第2回	胸痛について学ぶ、小テスト				原富 由香
第3回	動悸について学ぶ、小テスト				〃
第4回	循環系疾患について学ぶ①、小テスト				〃
第5回	循環系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第6回	循環系疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第7回	演習①				後藤 正和
第8回	総括テスト②・振り返り				〃
第9回	腰痛・背部痛について学ぶ、小テスト				松園 幸雅
第10回	循環系疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第11回	循環系疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第12回	循環系疾患について学ぶ⑥、小テスト				〃
第13回	循環系疾患について学ぶ⑦、小テスト				〃
第14回	演習②				後藤 正和
第15回	総括テスト②・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	症候学Ⅳ
代表講師	後藤 正和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 米満 弘一郎 (所属：熊本機能病院理事長) 山家 純一 (所属：熊本赤十字病院第三救急科部長)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急医療に関連の深い症状や徴候から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授業概要	<p>腹痛、吐血・下血を呈する疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。</p> <p>※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。</p>				
到達目標	<p>腹痛</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腹痛を内臓痛、体性痛、関連痛に分類し、機序について説明できる。 2. 腹痛の原因となる代表的な疾患を列挙し、判断の手がかりについて説明できる。 3. 腹痛の傷病者で重要な既往歴を列挙し、関連する腹痛の原因疾患を列挙できる。 4. 腹痛の傷病者で注意すべき随伴症候を列挙し、観察される疾患または病態を列挙できる。 5. 性状と随伴症候からみて緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。 6. 腹痛を訴える傷病者の緊急度・重症度判断、観察、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>吐血・下血</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 吐血と下血の定義と、消化管出血が生体に及ぼす影響について説明できる。 2. 上部消化管出血および下部消化管出血の定義を説明できる。 3. 吐血それぞれの主な原因疾患を列挙し、判断の手がかりについて説明できる。 4. 緊急度・重症度の高い吐血の原因疾患について説明できる。 5. 吐血の傷病者に対する観察事項、処置、医療機関選定について説明できる。 <p>消化器系疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性腹症の概念を理解し、緊急度の高い病態を列挙できる。 2. イレウス・腸閉塞の鑑別ができ、原因、病態、症候、現場活動について説明できる。 3. 消化管疾患の病因、病態、症候、現場活動について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、中間テストの合計 (30%)、総括テスト (40%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				後藤 正和
第2回	腹痛について学ぶ①、小テスト				山家 純一
第3回	腹痛について学ぶ②、小テスト				〃
第4回	腹痛について学ぶ③、小テスト				〃
第5回	吐血・下血について学ぶ、小テスト				〃
第6回	腹痛、吐血・下血の緊急度・重症度の判断、現場活動について学ぶ、小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				後藤 正和
第8回	消化系疾患について学ぶ①、小テスト				米満弘一郎
第9回	消化系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第10回	消化系疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第11回	消化系疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第12回	消化系疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第13回	中間テスト②・解説				後藤 正和
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	症候学V
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授 業 概 要	体温上昇、泌尿・生殖系疾患、筋・骨格系疾患、皮膚系疾患、眼・耳・鼻の疾患それぞれの病態生理から疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	筋・骨格系 1. 筋・骨格系疾患の主な疾患を列举し、原因、病態、症候、現場活動について説明できる。 2. 筋・骨格系疾患における緊急度・重症度判断の要点を説明できる。 皮膚系疾患 1. 現場活動で重要な皮疹を列举し、それぞれについて概要を説明できる。 2. 緊急度・重症度の高い皮膚所見、皮膚疾患を列举できる。 3. アレルギー性炎症によって発症する皮膚炎について説明できる。 体温上昇 1. 体温の上昇が生体に与える影響について、有利な点と不利な点に分けて説明できる。 2. 発熱・高体温の原因となる代表的な疾患・病態を列举できる。 3. 緊急度・重症度の高い体温上昇をきたす原因疾患を列举できる。 4. 体温上昇の傷病者に対する体温管理、観察、医療機関選定について説明できる。 泌尿・生殖系 1. 泌尿・生殖系疾患で重要な疾患を列举し、原因、病態、症候、現場活動について説明できる。 2. 泌尿・生殖系疾患の傷病者における緊急度・重症度の判断について説明できる。 3. 急性腎不全、慢性腎不全の概念、分類、原因、病態、症候、現場活動について説明できる。 眼・耳・鼻の疾患 1. 眼の救急疾患で重要な疾患を列举し、原因、病態、症候、現場活動について説明できる。 2. 視覚の伝導路を図示し、各部位の障害でみられる視野障害を説明できる。 3. 耳の救急疾患で主な疾患を列举し、原因、病態、症候、現場活動について説明できる。 4. 鼻出血の病態、症候、処置について説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、中間テストの合計 (30%)、総括テスト (40%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				
第2回	筋・骨格系疾患について学ぶ①、小テスト				
第3回	筋・骨格系疾患について学ぶ②、小テスト				
第4回	皮膚系疾患について学ぶ、小テスト				
第5回	体温上昇について学ぶ①、小テスト				
第6回	体温上昇について学ぶ②、小テスト				
第7回	中間テスト①・解説				
第8回	泌尿・生殖系疾患について学ぶ①、小テスト				
第9回	泌尿・生殖系疾患について学ぶ②、小テスト				
第10回	泌尿・生殖系疾患について学ぶ③、小テスト				
第11回	眼・耳・鼻の疾患について学ぶ①、小テスト				
第12回	眼・耳・鼻の疾患について学ぶ②、小テスト				
第13回	中間テスト②・解説				
第14回	演習				
第15回	総括テスト・振り返り				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	内科学 I
代表講師	後藤 正和 (所属:熊本総合医療リハビリテーション学院) 櫻井 聖大 (所属:熊本医療センター救命救急科部長) 岡野 雄一 (所属:熊本赤十字病院第一救急科副部長)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期:15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急疾病に関係の深い病態生理から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授業概要	呼吸系疾患の病態生理から疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<p>呼吸困難</p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸困難を吸気性と呼気性および混合性に分け、代表的な原因疾患を列挙できる。 急性の呼吸困難の原因となる代表的な疾患を列挙し、判断の手がかりについて説明できる。 緊急度・重症度の高い呼吸困難をきたす原因疾患を列挙できる。 呼吸困難を訴える傷病者に対する観察、処置の要点、医療機関選定について説明できる。 <p>咯血</p> <ol style="list-style-type: none"> 咯血の定義を説明できる。 咯血の原因となる代表的な呼吸系疾患を列挙し、判断の手がかりについて説明できる。 咯血の傷病者に対する観察、基本的処置、医療機関選定について説明できる。 <p>呼吸不全</p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸不全の定義を説明できる。 低酸素血症が生体に及ぼす影響と代償機構について説明できる。 高二酸化炭素血症が生体に及ぼす影響について説明できる。 CO₂ナルコーシスの概念や発症機序、症候、対応について説明できる。 急性呼吸不全、慢性呼吸不全の代表的な原因疾患を列挙できる。 <p>呼吸系疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸系疾患の主要な症候を列挙し、説明できる。 呼吸系疾患の傷病者で観察すべき事項を列挙し、緊急度・重症度の判断について説明できる。 呼吸系疾患の主な随伴症候を列挙し、代表的な原因疾患を列挙できる。 呼吸系疾患傷病者の処置・搬送の要点について説明できる。 急性の上気道閉塞をきたす感染症を列挙し、説明できる。 下気道の代表的疾患を列挙し、病態、症候、観察、処置について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(30%)、中間テストの合計(30%)、総括テスト(40%) ※注意事項:小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				後藤 正和
第2回	呼吸困難について学ぶ①、小テスト				櫻井 聖大
第3回	呼吸困難について学ぶ②、小テスト				〃
第4回	呼吸困難について学ぶ③、小テスト				〃
第5回	呼吸不全について学ぶ①、小テスト				〃
第6回	呼吸不全について学ぶ②、小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				後藤 正和
第8回	呼吸系疾患について学ぶ①、小テスト				岡野 雄一
第9回	呼吸系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第10回	呼吸系疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第11回	呼吸系疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第12回	呼吸系疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第13回	中間テスト②・解説				後藤 正和
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	内科学Ⅱ
代表講師	後藤 正和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 赤坂 威史 (所属：熊本市市民病院救急科部長) 原田 正公 (所属：熊本市市民病院救急科部長)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急疾病に関係の深い病態生理から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授業概要	神経系疾患の病態生理から疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	重症脳障害 1. 意識障害について、意識レベルの低下、意識内容の異常、意識の狭窄から説明できる。 2. 意識障害の発症機序について、脳血流、脳代謝、脳幹障害の面から説明できる。 3. 頭蓋内圧亢進による意識障害の機序について説明できる。 4. 重要な脳ヘルニアを列挙し、説明できる。 5. 遷延性意識障害について、脳死との違いを含めて説明できる。 神経系疾患 1. 神経系の救急疾患で重要な症候を列挙し、説明できる。 2. 神経系疾患の傷病者に共通する現場活動について説明できる。 3. 脳卒中の主な疾患を列挙し、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。 4. 中枢神経系感染症の主な疾患を列挙し、原因、症候について説明できる。 5. 末梢神経疾患の主な疾患を列挙し、病態、症候、現場活動について説明できる。 6. てんかんの概念、原因、病態、発作の種類と症候、現場活動について説明できる。 7. 脳腫瘍について簡単に説明できる。 8. 代表的な神経変性疾患をいくつか列挙し、説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テストの合計 (70%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				後藤 正和
第2回	重症脳障害について学ぶ①、小テスト				原田 正公
第3回	重症脳障害について学ぶ②、小テスト				〃
第4回	重症脳障害について学ぶ③、小テスト				〃
第5回	重症脳障害について学ぶ④、小テスト				〃
第6回	重症脳障害について学ぶ⑤、小テスト				〃
第7回	演習①				後藤 正和
第8回	総括テスト①・振り返り				〃
第9回	神経系疾患について学ぶ①、小テスト				赤坂 威史
第10回	神経系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第11回	神経系疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第12回	神経系疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第13回	神経系疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第14回	演習②				後藤 正和
第15回	総括テスト②・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	内科学Ⅲ
代表講師	後藤 正和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 松田 浩史 (所属：くまもと県北病院副院長 兼 糖尿病・内分泌科部長) 加藤 陽一 (所属：熊本赤十字病院第一救急科副部長)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、救急疾病に関係の深い病態生理から疾患単位の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。				
授業概要	代謝・内分泌・栄養系疾患、血液・免疫系疾患それぞれの病態生理から疾患単位の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<p>代謝・内分泌・栄養系疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病の病態、症候、合併症、薬物治療について説明できる。 2. 低血糖の原因、病態、症候、処置について説明できる。 3. 急性代謝失調のうち高血糖をきたすものを列挙し、説明できる。 4. 甲状腺、副腎の機能亢進と機能低下について、説明できる。 5. 甲状腺クリーゼ、粘液性水腫性昏睡、副腎クリーゼについて、病態、症候について説明できる。 6. 主なビタミン欠乏症を列挙し、病態、症候、現場活動について説明できる。 <p>血液・免疫系疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貧血の定義と種類について述べ、主な症候を列挙できる。 2. 止血機能に影響を与える主な薬剤およびその薬剤を服用する疾患を列挙できる。 3. アナフィラキシーの定義を説明できる。 4. アナフィラキシー発症の誘因を分類し、その病態について、呼吸系と循環系を中心に説明できる。 5. アナフィラキシーについて、病態、症候、現場活動について説明できる。 6. 自己免疫疾患の概念について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テストの合計 (70%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				後藤 正和
第2回	代謝・内分泌・栄養系疾患 (総論) について学ぶ、小テスト				松田 浩史
第3回	代謝系疾患について学ぶ①、小テスト				〃
第4回	代謝系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第5回	代謝系疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第6回	内分泌・栄養系疾患について学ぶ、小テスト				〃
第7回	演習①				後藤 正和
第8回	総括テスト①・振り返り				〃
第9回	血液・免疫系疾患 (総論) について学ぶ、小テスト				加藤 陽一
第10回	血液系疾患について学ぶ①、小テスト				〃
第11回	血液系疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第12回	アナフィラキシーについて学ぶ①、小テスト				〃
第13回	アナフィラキシーについて学ぶ②、小テスト				〃
第14回	演習②				後藤 正和
第15回	総括テスト②・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	母性・小児医学
代表講師	後藤 正和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 川口 久美子 (所属：ゆのはら産婦人科医院)				
授業方法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	<ul style="list-style-type: none"> ・現役助産師が、診療の補助の経験を活かし、妊婦・分娩と救急疾患及び現場活動について講義する。 ・現役医師が、医療の経験を活かし、小児に特有な疾患の知識と傷病者に対する理論的な対応について講義する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠による母体及び胎児の変化と、分娩及び新生児への対応に必要な知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を総合的に学習する。 ・小児に特有な疾患の知識と観察・評価・処置及び搬送に必要な知識を総合的に学習する。また、被虐待児症候群の概念、種類、疫学、対応について学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	妊娠・分娩と救急疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠による母体の変化について説明できる。 2. 妊娠に関連した疾患の特徴を列挙できる。 3. 妊娠初期、中期、後期にみられる異常の主なもの列挙し、病態、症候について説明できる。 4. 正常分娩の経過を説明できる。 5. 異常分娩のうち主なるものを列挙し、病態、症候、対応について説明できる。 6. 分娩介助の目的、適応、使用する資器材、方法と手順、評価、注意点等を説明できる。 7. 新生児の処置、救急蘇生法、搬送の注意点について説明できる。 小児に特有な疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な発育の目安を説明できる。 2. 健康な新生児、乳児、3歳児、6歳児の呼吸数、脈拍数、血圧の目安を述べるができる。 3. 小児傷病者の病歴聴取、観察の要点、緊急度・重症度判断について説明できる。 4. 小児の代表的救急疾患を列挙し、症候、観察、処置について説明できる。 5. 被虐待児症候群の概念、種類、疫学、対応について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テストの合計 (70%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020 医療従事者用』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、前期授業確認テスト				後藤 正和
第2回	妊婦・分娩と救急疾患について学ぶ①、小テスト				川口久美子
第3回	妊婦・分娩と救急疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第4回	妊婦・分娩と救急疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第5回	妊婦・分娩と救急疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第6回	実技① 分娩介助				〃
第7回	妊婦・分娩と救急疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第8回	実技② 新生児蘇生				〃
第9回	総括テスト①・振り返り				後藤 正和
第10回	小児に特有な疾患について学ぶ①、小テスト				〃
第11回	小児に特有な疾患について学ぶ②、小テスト				〃
第12回	小児に特有な疾患について学ぶ③、小テスト				〃
第13回	小児に特有な疾患について学ぶ④、小テスト				〃
第14回	小児に特有な疾患について学ぶ⑤、小テスト				〃
第15回	総括テスト②・振り返り				後藤 正和

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	高齢者・精神医学
代表講師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	演習・講義	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授 業 概 要	<p>高齢者疾病と併せて、社会問題となっている高齢者の認知症を含んだ精神疾病の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的・総合的に学習する。</p> <p>※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。 ※履修条件：「健康長寿ネット」で高齢者の全体像について自己学習を進め、レポートを指定日までに提出すること。 ※履修における推奨事項：各回の授業内容にある keyword について言葉の意味を理解していること (あるいは調べておくこと)</p>				
到 達 目 標	<p>高齢者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体機能の変化について説明できる。 2. 高齢者疾患を、個人差、基礎疾患、常用薬、非典型的な症候、合併症をキーワードに説明できる。 3. 高齢者の背景について社会的状況、保険福祉制度、虐待をキーワードに説明できる。 4. 高齢者に特徴的な疾患名を列挙できる。 5. 高齢者救急について、高齢者の特徴をふまえ注意点を説明できる。 6. 認知症の概念、症状について説明できる。 <p>在宅医療</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療法の概念について説明できる。 2. 在宅療法の種類と概要、発生し得る問題点、観察時の注意点と対処法について説明できる。 <p>精神障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害を原因、症状の両面から分類し、説明できる。 2. 統合失調症、気分障害、中毒性精神障害等の症候、観察、現場活動について説明できる。 3. 向精神薬の主な副作用について説明できる。 4. 救急現場で頻度の高い精神症候を列挙し、特徴と対応について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	<p>小テストの合計 (20%)、在宅医療「課題」内容の評価 (20%)、総括テストの合計 (60%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する</p>				
テキスト・教材等	<p>Moodle 上の資料、『改訂第 10 版 救急救命士標準テキスト』 Web サイト『健康長寿ネット』</p>				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)、事前学習課題確認テスト				
第 2 回	高齢者救急 (総論) について学ぶ、小テスト				
第 3 回	高齢者救急について学ぶ①、小テスト				
第 4 回	高齢者救急について学ぶ②、小テスト				
第 5 回	高齢者救急について学ぶ③、小テスト				
第 6 回	認知症について学ぶ、小テスト				
第 7 回	在宅医療について学ぶ、小テスト、課題				
第 8 回	演習①				
第 9 回	総括テスト①・振り返り				
第 10 回	精神障害 (総論) について学ぶ、小テスト				
第 11 回	精神障害について学ぶ①、小テスト				
第 12 回	精神障害について学ぶ②、小テスト				
第 13 回	精神障害について学ぶ③、小テスト				
第 14 回	演習②				
第 15 回	総括テスト②・振り返り				

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	外傷救急医学	科目名	外傷医学 I
代 表 講 師	後藤 正 和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 林 田 和 之 (所属：熊本赤十字病院外傷外科部長・重症外傷センター長)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、外傷の疫学と外傷システム、部位別外傷の病態生理及び現場活動について講義する。				
授 業 概 要	外傷の疫学と外傷システム、外傷の病態生理及び胸部・腹部・骨盤外傷の受傷機転・病態を理解し、観察と評価・処置・搬送に関する知識を系統的・総合的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到 達 目 標	1. 疫学と外傷システムについて説明できる。 2. 外傷の受傷機転・病態生理について説明できる。 3. 部位別の外傷の観察と評価・処置を説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、中間テストの合計 (30%)、総括テスト (40%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂2版補訂版 JPTEC ガイドブック』 『標準 多数傷病者対応 MCLS テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法) 前期授業確認テスト				後藤 正和
第2回	疫学と外傷システムについて学ぶ 小テスト				林田 和之
第3回	受傷機転について学ぶ① 小テスト				〃
第4回	受傷機転について学ぶ② 小テスト				〃
第5回	JPTEC の活動について学ぶ① 小テスト				〃
第6回	JPTEC の活動について学ぶ② 小テスト				〃
第7回	中間テスト①・解説				後藤 正和
第8回	JPTEC の活動について学ぶ③ 小テスト				林田 和之
第9回	JPTEC の活動について学ぶ④ 小テスト				〃
第10回	JPTEC の活動について学ぶ⑤ 小テスト				〃
第11回	JPTEC の活動について学ぶ⑥ 小テスト				〃
第12回	ドクターヘリ・ドクターカー、DMAT について学ぶ				〃
第13回	中間テスト②・解説				後藤 正和
第14回	演習				〃
第15回	総括テスト・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	外傷救急医学	科目名	外傷医学Ⅱ
代 表 講 師	後藤 正和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 上園 圭司 (所属：熊本市市民病院救急科医長)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容 及び授業内容 との関連性	現役医師が、救急医療の経験を活かし、部位別外傷の病態生理及び現場活動について講義する。				
授 業 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部、顔面・頸部、四肢外傷等の受傷機転・病態を理解し、観察と評価・処置・搬送に関する知識を系統的・総合的に学習する。 ・環境因子による障害の発生機序、病態生理から観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に学習する。 <p>※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。</p>				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷の受傷機転・病態生理について説明できる。 2. 部位別の外傷の観察と評価・処置を説明できる。 3. その他の外傷や環境障害で生じる損傷の観察と評価・処置を説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (30%)、総括テストの合計 (70%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』『改訂2版補訂版 JPTEC ガイドブック』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法) 前期授業確認テスト				後藤 正和
第2回	四肢外傷について学ぶ 小テスト				上園 圭司
第3回	脊椎・脊髄外傷、捻頸・絞頸について学ぶ 小テスト				〃
第4回	顔面・頸部外傷について学ぶ 小テスト				〃
第5回	頭部外傷について学ぶ① 小テスト				〃
第6回	頭部外傷について学ぶ② 小テスト				〃
第7回	演習①				後藤 正和
第8回	総括テスト①・振り返り				〃
第9回	小児・高齢者・妊婦の外傷、筋・骨格系疾患について学ぶ 小テスト				〃
第10回	熱傷、化学損傷について学ぶ 小テスト				〃
第11回	電撃症・雷撃症、刺咬症 (傷) について学ぶ 小テスト				〃
第12回	環境障害：凍傷、紫外線による障害について学ぶ 小テスト				〃
第13回	環境障害：放射線障害について学ぶ 小テスト				〃
第14回	演習①				〃
第15回	総括テスト①・振り返り				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	環境障害・急性中毒学	科目名	環境障害・急性中毒学
代表講師	後藤 正和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 川野 雄一郎 (所属：済生会熊本病院救急科副部長)				
授業方法	講義	単位数	1	学期・回数	後期：9回 (18時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	・現役医師が、救急医療の経験を活かし、中毒物質等による障害の発生機序・病態生理を講義する。 ・救急救命士として消防本部に勤務していた教員が、救急現場における救急救命処置等の経験を活かし、環境因子による障害の発生機序・病態生理を講義する。				
授業概要	環境因子、中毒物質等による障害の発生機序、病態生理から観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到達目標	<p>中毒総論、各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中毒の概念、疫学について簡単に説明できる。 2. 急性中毒の原因と判断に有用な症候について列挙できる。 3. 急性中毒の観察・評価・処置と搬送について説明できる。 4. 中毒に関する情報の収集法について説明できる。 <p>異物</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異物の定義、病態を簡単に説明できる。 2. 気道異物の観察・評価・処置と搬送について説明できる。 <p>溺水</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 溺水の疫学、概念、病態について簡単に説明できる。 2. 溺水傷病者の観察・評価・処置と搬送について説明できる。 <p>熱中症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 熱中症の概念、疫学、病態、発生機序、分類について簡単に説明できる。 2. 熱中症の観察・評価・処置と搬送について説明できる。 <p>偶発性低体温</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 偶発性低体温症の定義、発症機序、病態、分類について簡単に説明できる。 2. 偶発性低体温症の観察・評価・処置と搬送について説明できる。 <p>その他の環境障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高山病の病態、症候、観察・評価・処置と搬送について説明できる。 2. 減圧障害の種類、病態、症候、観察・評価・処置と搬送について説明できる。 3. 酸素欠乏症の病態、症候、救助、観察・評価・処置と搬送について説明できる。 				
成績評価の方法と基準	小テストの合計 (100%) ※注意事項：小テストは原則として追試・再試の対象から除外する				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法) 中毒総論について学ぶ、小テスト				後藤 正和 川野雄一郎
第2回	中毒各論①について学ぶ、小テスト				川野雄一郎
第3回	中毒各論②について学ぶ、小テスト				〃
第4回	中毒各論③について学ぶ、小テスト				〃
第5回	中毒各論④について学ぶ、小テスト				〃
第6回	熱中症、偶発性低体温症について学ぶ、小テスト				後藤 正和
第7回	溺水、異物について学ぶ、小テスト				〃
第8回	高山病、減圧障害、酸素欠乏症について学ぶ、小テスト				〃
第9回	まとめ				〃

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	臨地実習	科目名	救命処置実習 I
代 表 講 師	仮 屋 俊 作 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	実 習	単位数	2	学期・回数	前期：45回 (90時間)
授 業 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだ知識を基に、基本的な技術を学習する。 ・傷病者や関係者等に対する適切な態度を習得し、医療従事者としての自覚と責任感を養う。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な救急救命処置を何も見ないで実施できる。 2. 基本的な救急救命処置を正確かつ適切な時間内に実施できる。 3. 自主的に行動できる。 4. 何事にも凛とした態度で取り組むことができる。 5. 相手に応じた言葉遣いができる。 				
成績評価の方法と基準	スキルチェックの合計 (30%)、実技試験 (40%) ルーブリックを用いた態度評価 (30%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020 (市民用・解説編)』 『改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック』、『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』 赤十字水上安全法講習テキスト、資料「救命処置実習 I ワークブック」				
回 数	授 業 内 容				担当講師
全8回	A 項目：市民が行う一次救命処置 (成人・小児・乳児の心肺蘇生と AED、気道異物除去) スキルチェック				仮屋 俊作 後藤 正和
全8回	B 項目：体位管理、体温管理、ボディーメカニクス、各種搬送法 スキルチェック				〃
全8回	C 項目：止血、創傷処置、四肢固定、骨盤固定 スキルチェック				〃
全6回	D 項目：ネックカラー、バックボード、スクープストレッチャー				〃
全2回	E 項目：KED、高齢者・小児・妊婦への全身固定、ヘルメット離脱				〃
全4回	F 項目：呼吸数、脈拍数、血圧、体温				〃
全2回	G 項目：意識、聴診 (呼吸音、心音、腸雑音)、SpO ₂ 、E _T CO ₂				〃
全4回	H 項目：水難救助法				仮屋 俊作
全2回	I 項目：自己の身体能力評価と目標設定				〃
全1回	実技試験：D、E、F、G 項目				仮屋 俊作 後藤 正和

学 科	救急救命学科 1年次	教育 内容	臨地実習	科目名	救命処置実習Ⅱ
代表講師	仮屋 俊作 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	実 習	単位数	3	学期・回数	後期：68回 (135時間)
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や救命処置実習Ⅰで得た知識・技術を活用し、高度な救命救急処置を学習する。 ・傷病者や関係者等に対する適切な態度を向上させ、医療従事者としての自覚と責任感を高める。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な救急救命処置を何も見ないで実施できる。 2. 高度な救急救命処置を正確かつ適切な時間内に実施できる。 3. 身につけた救急救命処置を総合し、チームの一員として活動できる。 4. 自主的に行動できる。 5. 何事にも凛とした態度で取り組むことができる。 6. 相手に応じた言葉遣いができる。 				
成績評価の方法と基準	スキルチェックの合計 (30%)、実技試験 (40%) ルーブリックを用いた態度評価 (30%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020 (市民用・解説編)』 『改訂6版 救急蘇生法の指針2020 (医療従事者用)』、資料「救命処置実習Ⅰワークブック」				
回 数	授 業 内 容				担当講師
全5回	J 項目：喉頭鏡、マギール鉗子、吸引				仮屋 俊作 後藤 正和
全5回	K 項目：酸素投与、人工呼吸				〃
全5回	L 項目：心電図、除細動				〃
全5回	M 項目：高度気道確保 (声門上気道デバイス)				〃
全2回	スキルチェック：J、K、L、M項目				〃
全8回	N 項目：高度気道確保 (気管内チューブ)、気管吸引				〃
全2回	スキルチェック：N項目				〃
全6回	O 項目：静脈路確保と輸液				〃
全6回	P 項目：薬剤投与 (アドレナリン)				〃
全2回	スキルチェック：O、P項目				〃
全12回	Q 項目：医療従事者が行う二次救命処置 (チームBLSと特定行為)				〃
全2回	R 項目：シミュレーション実習Ⅱ実技試験見学実習				〃
全5回	S 項目：指導技法				後藤 正和
全2回	I 項目：自己の身体能力評価				仮屋 俊作
全1回	実技試験：Q項目				仮屋 俊作 後藤 正和